

## 雇用保険制度における弾力条項について

(労働保険の保険料の徴収等に関する法律(昭和44年法律第84号)第12条第5項及び第8項)

### 失業等給付に係る弾力条項

$$2 < \frac{((\text{失業等給付に係る保険料額} + \text{国庫負担額}) - \text{失業等給付費}) + \text{当該年度末の積立金}}{\text{失業等給付費}} \Rightarrow \begin{array}{c} \text{保険料率} \\ \text{引き下げ可能} \\ (\sim 4/1000) \end{array}$$

※ 17年度決算額による計算 = 2.98  
※ 18年度決算額による計算 = 4.37

18年度決算額による計算によっても、保険料率を16/1000から12/1000まで引き下げることが可能。

### 雇用保険二事業に係る弾力条項

$$1.5 < \frac{(\text{二事業に係る保険料額} - \text{二事業に要する費用}) + \text{当該年度末の雇用安定資金}}{\text{二事業に係る保険料額}} \Rightarrow \begin{array}{c} \text{保険料率} \\ \text{引き下げ} \\ (0.5/1000) \end{array}$$

※ 17年度決算額による計算 = 1.54  
※ 18年度決算額による計算 = 1.72

18年度決算額による計算によっても、保険料率を3.5/1000から3/1000まで引き下げることが必要。

# 失 業 等 給 付 関 係 収 支 状 況

(単位：億円)

|                          | 14年度   | 15年度   | 16年度   | 17年度   | 18年度   | 19年度<br>(予 算) |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 収 入                      | 25,886 | 25,321 | 25,377 | 28,978 | 28,764 | 21,782        |
| うち 失業等給付に係る<br>国 庫 負 担 金 | 6,417  | 4,494  | 4,267  | 3,462  | 1,953  | 1,837         |
| 支 出                      | 26,820 | 21,321 | 17,416 | 16,972 | 15,261 | 18,881        |
| 差 引 剰 余                  | ▲ 934  | 4,000  | 7,962  | 12,006 | 13,503 | 2,900         |
| 積 立 金 残 高                | 4,064  | 8,064  | 16,026 | 28,032 | 41,535 | 44,435        |

(注) 1. 19年度の「支出」には、予備費 840億円が計上されている。

2. 数値は、それぞれ四捨五入している。

## 雇 用 保 険 二 事 業（三 事 業）関 係 収 支 状 況

（単位：億円、％）

|             | 14年度  |                  | 15年度  |                  | 16年度  |                  | 17年度  |                  | 18年度  |                  | 19年度<br>(予算) |
|-------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|--------------|
|             | 予 算   | 決 算              | 予 算   | 決 算              | 予 算   | 決 算              | 予 算   | 決 算              | 予 算   | 決 算              |              |
| 収 入         | 5,263 | 5,255            | 5,081 | 5,123            | 5,132 | 5,193            | 5,134 | 5,254            | 5,391 | 5,401            | 4,861        |
| 支 出         | 6,168 | 4,354<br>( 73.7) | 5,770 | 4,124<br>( 71.5) | 5,073 | 3,892<br>( 76.7) | 4,771 | 3,683<br>( 77.2) | 4,167 | 3,578<br>( 85.9) | 3,563        |
| 差 引 剩 余     | ▲ 905 | 401              | ▲ 689 | 999              | 60    | 1,301            | 362   | 1,571            | 1,223 | 1,823            | 1,298        |
| 安 定 資 金 残 高 |       | 3,011            |       | 4,010            |       | 5,312            |       | 6,883            |       | 8,706            | 10,004       |

（注） 1. 予算の「支出」には、予備費（14' 49億円、15' 170億円、16' 120億円、17' 110億円、18' 80億円、19' 50億円）が計上されている。

2. （ ）内は、それぞれ予算に対する執行率である。

3. 数値は、それぞれ四捨五入している。

(参照条文)

◎労働保険の保険料の徴収等に関する法律（昭和四十四年法律第八十四号）

（一般保険料に係る保険料率）

第十二条 （略）

234 （略）

5 厚生労働大臣は、毎会計年度において、徴収保険料額並びに雇用保険法第六十六条第一項、第二項及び第五項並びに第六十七条の規定による国庫の負担額の合計額と同法の規定による失業等給付の額（以下この項において「失業等給付額」という。）との差額を当該会計年度末における労働保険特別会計の雇用勘定の積立金（第七項において「積立金」という。）に加減した額が、当該会計年度における失業等給付額の二倍に相当する額を超え、又は当該失業等給付額に相当する額を下るに至つた場合において、必要があると認めるときは、労働政策審議会の意見を聴いて、一年以内の期間を定め、雇用保険率を千分の十五・五から千分の二十三・五まで（前項ただし書に規定する事業（同項第三号に掲げる事業を除く。）については千分の十七・五から千分の二十五・五まで、同号に掲げる事業については千分の十八・五から千分の二十六・五まで）の範囲内において変更することができる。

6・7 （略）

8 厚生労働大臣は、毎会計年度において、二事業費充当徴収保険料額と雇用保険法の規定による雇用安定事業及び能力開発事業に要する費用に充てられた額（予算の定めるところにより、労働保険特別会計の雇用勘定に置かれる雇用安定資金に繰り入れられた額を含む。）との差額を当該会計年度末における当該雇用安定資金に加減した額が、当該会計年度における一般保険料徴収額に千分の三・五の率（第四項第三号に掲げる事業については、千分の四・五の率）を雇用保険率で除して得た率を乗じて得た額の一・五倍に相当する額を超えるに至つた場合には、雇用保険率を一年間その率から千分の〇・五の率を控除した率に変更するものとする。

# 雇用保険料及び国庫負担の推移

|           | 雇 用 保 険 料            |                          |                           | 国庫負担率<br>(基本手当)                         |
|-----------|----------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------------------------|
|           |                      | 失業等給付保険料率<br>(労使折半)      | 二事業保険料率<br>(使用者負担)        |                                         |
| 失業保険(昭22) | $\frac{22}{1,000}$   | $\frac{22}{1,000}$       |                           | $\frac{1}{3}$                           |
| (昭24)     | $\frac{20}{1,000}$   | $\frac{20}{1,000}$       |                           | ↓                                       |
| (昭27)     | $\frac{16}{1,000}$   | $\frac{16}{1,000}$       |                           | ↓                                       |
| (昭34)     | ↓                    | ↓                        |                           | $\frac{1}{4}$                           |
| (昭35)     | $\frac{14}{1,000}$   | $\frac{14}{1,000}$       |                           | ↓                                       |
| (昭45)     | $\frac{13}{1,000}$   | $\frac{13}{1,000}$       |                           |                                         |
| 雇用保険(昭50) | $\frac{13}{1,000}$   | $\frac{10}{1,000}$       | $\frac{3.0}{1,000}$       |                                         |
| (昭53)     | $\frac{13.5}{1,000}$ | ↓                        | $\frac{3.5}{1,000}$ (法改正) |                                         |
| (昭54)     | $\frac{14.5}{1,000}$ | $\frac{11}{1,000}$ (法改正) | ↓                         |                                         |
| (昭56)     | $\frac{14.0}{1,000}$ | ↓                        | $\frac{3.0}{1,000}$ (弾力)  |                                         |
| (昭57)     | $\frac{14.5}{1,000}$ | ↓                        | $\frac{3.5}{1,000}$ (弾力)  |                                         |
| (昭61)     | $\frac{14.0}{1,000}$ | ↓                        | $\frac{3.0}{1,000}$ (弾力)  |                                         |
| (昭63)     | $\frac{14.5}{1,000}$ | ↓                        | $\frac{3.5}{1,000}$ (弾力)  |                                         |
| (平4)      | $\frac{12.5}{1,000}$ | $\frac{9}{1,000}$ (弾力)   | ↓                         | 22.5%<br>( $\frac{1}{4} \times 0.9$ )   |
| (平5)      | $\frac{11.5}{1,000}$ | $\frac{8}{1,000}$ (法改正)  | ↓                         | 20.0%<br>( $\frac{1}{4} \times 0.8$ )   |
| (平10)     | ↓                    | ↓                        | ↓                         | 14.0%<br>( $20.0\% \times 0.7$ )        |
| (平13)     | $\frac{15.5}{1,000}$ | $\frac{12}{1,000}$ (法改正) | ↓                         | $\frac{1}{4}$                           |
| (平14)     | $\frac{17.5}{1,000}$ | $\frac{14}{1,000}$ (弾力)  | ↓                         | ↓                                       |
| (平15)     | $\frac{19.5}{1,000}$ | $\frac{16}{1,000}$ (法改正) | ↓                         | ↓                                       |
| (平19)     | $\frac{15.0}{1,000}$ | $\frac{12}{1,000}$ (弾力)  | $\frac{3.0}{1,000}$ (弾力)  | 13.75%<br>( $\frac{1}{4} \times 0.55$ ) |

(注1) 農林水産業、清酒製造業及び建設業の失業等給付保険料率については労使双方1/1000ずつの上乗せがあり、また、建設業の三事業保険料率については、1/1000の上乗せがある。

(注2) 平成15年度法改正により、失業等給付の保険料率が16/1000とされたが、法律の附則により平成15年度及び16年度は暫定的に14/1000とされた。

(注3) 平成4年度～平成12年度、平成19年度～の国庫負担は、「当分の間」の措置として、本来の国庫負担の所要額に一定の率(H4年度0.9、H5～9年度0.8、H10～12年度0.56、H19年度0.55)を乗じて得た額とされた。